

## 人文学概論

時期 平成18年8月8日(火)～11日(金)

場所 国際文化学部棟 F棟101号教室

[文学部担当分] 文学部統一テーマ：人文学とは？

8月8日(火) 1時限(10:00～11:30)

授業題目：グリム童話とグリム兄弟

授業担当者：宮田 眞治

講義概要：ほとんどの皆さんが、子供のころに『グリム童話』を読んだことがあると思います。グリム童話は兄弟の生前に合計7回刊行され、そのつど数多くの修正が加えられていったこと、「ドイツ民衆に古くから伝えられてきた民話を集めたもの」とは必ずしも言えないこと、その誕生の背景にはナポレオン戦争があったこと—そういったことは、初耳の人も多いのではないのでしょうか。この講義では、グリム童話とグリム兄弟を手がかりに、「収集し、分析し、再構成する」という人文学の作業の一端をご紹介します。

8月8日(火) 2時限(13:00～14:30)

授業題目：歴史と<sup>いま</sup>と私たち  
現在

授業担当者：河島 真

講義概要：わたしたちの身近にあるあらゆるものに歴史があります。この授業では、みなさんが訪れている神戸大学が、今なぜ、何のためにここにあるのかを、近代・現代日本のダイナミックな歴史の流れとの関係から考えてみたいと思います。教科書で学ぶ歴史が、当たり前だと思っている身近な物事と結びついていることに気付いてほしいと考えています。

8月8日(火) 3時限(15:00～16:30)

授業題目：映画を考える

授業担当者：前川 修

講義概要：私たちは日々、映画を含むさまざまな映像の洪水を当たり前で自明のもの、言い換えれば、向こう側にある景色を透明な窓のように伝えてくれるものであるかのように受けとっています。しかし、こうした映像には、歴史的な編集方法や観客に訴えるためのさまざまな効果がちりばめられています。この授業では、とくに映画に焦点を合わせ、具体的な映画作品をみながら、映画の組み立てがどのように私たちのものの見方を「編集」しているのか、人文学の立場から考えてみます。

8月9日(水) 1時限(10:00～11:30)

授業題目：「美術史学へのお誘い」

授業担当者：百橋 明穂

講義概要：高校の正規の授業科目にはない、聞き慣れない学問分野ですが、実は歴史の教科書で、その時代の文化という項目で、例えば飛鳥時代の法隆寺の仏像や江戸時代の宗達・光琳など、時代の特徴を表す美術作品として必ずお目にかかっており、また美術の授業でイタリア・ルネサンス期のダビンチやフランスの印象派の画家セザンヌといった有名な作家の作品を目にしているはずです。そのような美術作品や作家を対象にその歴史的な流れや制作の背景など

を研究する学問です。その魅力の一端をご紹介いたしましょう。

[国際文化学部担当分]

8月9日(水) 2限 (13:00~14:30)

講義題目: 「脳とこころ、人間理解のための認知心理学入門」

講義担当者: 松本絵理子

講義概要: 映画を見て泣いたり、新しく知り合った人の顔を覚えたり、といった日常的な行動を行っているとき、脳の中では何が起きているのでしょうか? 人間の行動を支えている脳のはたらき、仕組みについて認知心理学や脳科学での研究事例を紹介しながら人間のこころについて考えてみたいと思います。

8月9日(水) 3限 (15:00~16:30)

講義題目: 「自由民主主義は生き残れるか? ——グローバル化と現代社会のゆくえ」

講義担当者: 上野成利

講義概要: グローバル化が加速度的に進行するなか、テロリズムや戦争が不気味な拡がりを見せている。だがそうした暴力は文明に敵対する蛮行なのか。むしろ文明の内部にこそ野蛮の芽は潜んでいるのではないか。——二〇世紀の「世界戦争」の経験が突きつけたこの問いをめぐって、自由や民主主義といった理念はどこまでこの問いに応答できるのかを考えながら、原理的なレベルまで掘り下げて検討してみたいと思います。

8月10日(木) 1限 (10:00~11:30)

講義題目: 「イスラーム教徒と日本人の多文化共生」

講義担当者: 中村覚

講義概要: イスラーム教徒(ムスリム)は、なぜ「テロ」行為を繰り返しているのだろうか。世界に10億人を超えるムスリムは、狂信的な考えにもとづいて、暴力を繰り返しているのだろうか。日本人は、彼らと友好的に付き合うことができる方法があるのではないか。日本とムスリムの政治、歴史、経済、宗教の関係の中から、ヒントをさがそう。それには、多文化共生という考え方が、有効なはずである。

8月10日(木) 2限: 須崎先生 (13:00~14:30)

講義題目: 「日本人の国際感覚—約100年前の歴史的経験と現在—」

講義担当者: 須崎慎一

講義概要: ある国を他の国々や人々が、どのように見ているのかという問題は、その国が国際社会で生きていくうえで重要な問題です。またそのような他者からの視線に対して、その国の人々が、どれだけそれに気づき、対応しようとしているのかも、その国やそこに暮らす人々の国際感覚を考えていくため重要な要素となるでしょう。その国(この講義の場合は、日本)に見られる他者からの視線へ対応していく国際感覚は、その国が世界の中で「名誉ある地位を占め」(日本国憲法前文)ていくための試金石となるのではないのでしょうか。講義では、日本が世界の「一等国」となった100年以上前の日清・日露戦争期の日本人の国際感覚を例として取り上げ、その歴史的経験を明らかにし、あわせて現在の日本人の国際感覚を考えていく素材にしていこうと思います。

[発達科学部担当分]

8月10日(水) 3時限(15:00~16:30)

授業題目: スポーツから排除されたもの—スポーツの近代が映す人間発達—

授業担当者: 秋元 忍

授業内容: この授業では、人間とスポーツの関係の「これまで」を批判的に見ていくことから、人間とスポーツの、さらには、人間発達の「これから」を展望してみたいと思います。特にとりあげたいのは、近代という時代を通してスポーツ的な世界から排除された諸特徴です。近代以前に豊かな基盤を持っていたスポーツ的な世界から、一体何が継承、排除され、いわゆる近代スポーツ(運動競技)が誕生したのでしょうか? 数種の映像資料と共に考えていきましょう。

8月11日(金) 1時限(10:00~11:30)

講義題目: 外国人と共生する社会とは?—日本社会の「国際化/多民族化」を考える—

授業担当者: 浅野 慎一

授業内容: グローバル化が進み、国境を越えた人々の移動が増える中、世界各地でさまざまな人種・民族対立がおきています。従来、比較的「単一民族神話」が根強かった日本にも、多くの外国人が流入し、多民族社会化が進んでいます。この変化に新たな可能性を予感しつつ、しかし外国人犯罪の増加や民族主義の台頭に不安・危機感をいだいている人も多いのではないのでしょうか。本講では、政治・経済・社会・歴史といった個別の学問分野にとらわれず、総合的視野の中で、日本社会の多民族化とそれが意味するものについて考察します。

8月11日(金) 2時限(13:00~14:30)

講義題目: 発達心理学 — 乳児の認知と社会化 —

授業担当者: 中林 稔堯

授業内容: 発達心理学は、心理学が研究対象とする様々な行動や精神活動について、発達の観点から研究するものです。今回は人間の発達初期における赤ちゃんの認知能力や社会化について実験データをみながら検討したいと思います。

8月11日(金) 3時限(15:00~16:30)

講義題目: 発達支援を考える: 支援—被支援から相互支援への転換

授業担当者: 伊藤 篤

授業内容: 子どもの発達支援、なかでも主に母親を対象とした家庭支援活動の実態を例にあげながら、従来からなされてきた「支援される側・支援する側」という構造から、支援者コール被支援者・被支援者イコール支援者といった「相互支援」への転換によって、どのようなコミュニティが生まれるのかを検討してみたい。